

作成日 : 2007年10月18日
改訂日 : 2024年05月14日
改訂 第6版

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 :

製品名称 : ハードロックII プレクイックA 春秋用, 夏用, 冬用

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称 : 株式会社ニチコン

住所 : 〒211-0005 神奈川県川崎市中原区新丸子町751番地

担当部門 : 営業部

担当者 : 営業部 技術担当

電話番号 : 044-711-3385

ファックス番号 : 044-711-6678

e-mail address : nichicon1@isis.ocn.ne.jp

緊急連絡先電話番号 : 営業部 電話番号044-711-3385

デンカ株式会社 浜川工場 電子材料部 ハードロック課 電話番号0279-25-2110

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : 土木・建築用接着剤、補修材(アクリル系接着剤)

使用上の制限 : 推奨用途以外には使用しないこと。

食品接触材料の接着や医療機器等の接着に使用しないこと

整理番号 : 001A

2項以降は別添の製造業者(デンカ株式会社)の安全データシート参照

以下余白

作成日 : 2007年10月18日
改訂日 : 2024年05月14日
改訂 第6版

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 :

製品名称 : ハードロックII プレクイックA 春秋用, 夏用, 冬用

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称 : デンカ株式会社

住所 : 〒103-8338 東京都中央区日本橋室町2丁目1番1号

担当部門 : 本社 エラストマー・インフラソリューション部門 特殊混和材部

担当者 : 特殊混和材部 技術担当

電話番号 : 03-5290-5363

ファックス番号 : 03-5290-5085

e-mail address : dk010313@denka.co.jp

緊急連絡先電話番号 : 渋川工場 電子材料部 ハードロック課 電話番号0279-25-2110

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : 土木・建築用接着剤、補修材(アクリル系接着剤)

使用上の制限 : 推奨用途以外には使用しないこと。

食品接触材料の接着や医療機器等の接着に使用しないこと

整理番号 : HL_II_088A

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性 : 区分 2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分 2

皮膚感作性 : 区分 1

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分 3(気道刺激性)

(注) 記載なきGHS分類区分: 区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語: 警告

危険有害性情報

H315 - 皮膚刺激

H319 - 強い眼刺激

H317 - アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

H335 - 呼吸器への刺激のおそれ

注意書き

安全対策

P261 - 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレートの吸入を避けること。

P271 - 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

P264 - 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

P280 - 保護手袋を着用すること。

P272 - 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

P280 - 保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置

P321 - 特別な処置が必要である。

P312 - 気分が悪いときは医師に連絡すること。

- P304 + P340 - 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- P302 + P352 - 皮膚に付着した場合: 多量の水/適切な薬剤で洗うこと。
- P333 + P313 - 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。
- P362 + P364 - 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- P305 + P351 + P338 - 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- P337 + P313 - 眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。

保管

- P403 + P233 - 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- P405 - 施錠して保管すること。

廃棄

- P501 - 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

想定される非常事態の概要

蒸気(主に(メタ)アクリル酸エステル類)が滞留すると爆発の恐れがある。
 燃焼により有害なガス(一酸化炭素、窒素酸化物など)を発生することがある。
 皮膚などに触れるとかぶれることがある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

化学名又は一般名	化審法番号	CAS No.	プレクイックA 春秋用、冬用 含有量 (%)	プレクイックA夏用 含有量 (%)
無機充填剤、改質剤及び添加剤	非開示	非開示	50 - 70	50 - 70
アクリル酸エステル	非開示	非開示	20 - 40	20 - 40
メタクリル酸2-ヒドロキシエチル	2-1044	868-77-9	5.9	5.9
1-メチル-1-フェニルエチル =ヒドロペルオキシド	3-1014	80-15-9	< 1	< 1
ポリ(オキシエチレン) =アルキルフェニルエーテル (アルキル基の炭素数が9のものに限る。)	7-172	9016-45-9	0.5 - 0.6	0.5 - 0.6

4. 応急措置

吸入した場合

P304 + P340 - 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 蒸気を吸入して不快、頭痛等がある場合には、直ちに新鮮な空気のある場所に移し、毛布等で保温して安静にさせ、速やかに医師の手当てを受ける。

皮膚(又は髪)に付着した場合

P302 + P352 - 皮膚に付着した場合: 多量の水/適切な薬剤で洗うこと。
 P333 + P313 - 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。
 汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。

眼に入った場合

P305 + P351 + P338 - 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 P337 + P313 - 眼の刺激が続く場合: 医師の診察/手当てを受けること。
 洗眼の際、まぶたを指でよく開き、すみずみまで水が行きわたるように洗浄する。目をこすってはならない。洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であったりすると障害を生ずる恐れがある。できるだけ速やかに眼科医の診断/手当てを受ける。

飲み込んだ場合

水でよく口の中を洗浄する。気分が悪いときは、速やかに医師の診断/手当てを受ける。
被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。

医師に対する特別な注意事項

P321 - 特別な処置が必要である。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

P370 + P378 - 火災の場合は泡、粉末、炭酸ガス、乾燥砂を使用すること。

使ってはならない消火剤

水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

特有の消火方法

可燃性のものを周囲から取り除く。

火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。

消火作業は風上から行う。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

燃焼で発生する有毒なガスを吸い込まないように呼吸用保護具を着用し、風上から消火作業を行う。

保護眼鏡を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。

作業の際には必ず保護眼鏡や保護手袋等の保護具を着用し、風上から作業する。

環境に対する注意事項

環境への影響を起こさせないように、河川等へ排出させない。

回収物は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

漏洩時はおがくず、ウェス、砂等に吸収させてから回収して十分な水に浸漬して廃棄する。衝撃や静電気による火花が発生しない材質の用具を用いて回収する。

二次災害の防止策

付近の着火源となるものを速やかに取り除き、消火用機材を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

P261 - 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

目、皮膚、及び衣類に触れないように、8項に示した保護具を着用する。

漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。

(火災・爆発の防止)

火気厳禁。高温物、スパーク、火炎を避ける。

本製品の硬化物をディスクサンダー等で研磨した場合、研磨した粉末を集めたまま(掃除機のフィルター、ゴミ袋等)処置すると自然発火するおそれがある。

積もった研磨粉は、掃除機を使用せずにほうきで集め、廃棄するまで十分な水に浸しておき、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。

(局所排気、全体換気)

全体換気装置、必要に応じて局所排気装置を設置する。

(注意事項)

換気のよい場所で取扱い、蒸気を吸入しないように注意する。

目、皮膚及び衣服に付着させないようにする(第8項の保護具を参照)。

休憩場所等に手洗い、洗眼の設備を設ける。
取扱い後に手洗い、洗顔を励行する。

安全取扱注意事項

P271 - 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
P280E - 保護手袋を着用すること。
P280H - 保護眼鏡/保護面を着用すること。
混触危険物質(第10項参照)と同一場所に置かない。
A剤とB剤を一度に多量混合すると激しい発熱が生じるので行わない。
接着剤成分が付着したウェスやローラー、ダンボールなどの可燃物は自然発火する可能性がある
あるので十分な水に浸漬して廃棄する。

接触回避: データなし

衛生対策

P264 - 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
P272 - 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P362 + P364 - 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
作業中は飲食、喫煙をしない。
作業終了時には、石鹼で手を洗う。

保管

安全な保管条件

P403 + P233 - 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
P405 - 施錠して保管すること。
変質(変形)を防止するため、直射日光、水漏れ、湿気、熱を避けて冷暗所
(好ましくは20℃以下)で容器を密閉して保管する。

(避けるべき保管条件)

火災を防止するため、火気、熱源、発火源から離れた場所で保管する。

安全な容器包装材料

ポリエチレン(PE)またはポリプロピレン(PP)製容器。密封できない容器を保管に使用
すると、揮発する可能性がある。
金属製の容器に保管すると、ゲル状の不溶物を生じる可能性がある。
PE、PP以外のプラスチック製容器、金属性容器、ガラス製容器は不適切。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

日本産衛学会の許容濃度: データなし

ACGIH 許容濃度: データなし

設備対策

局所排気等の設備を設置して作業者がばく露から避けられるようにする。
取扱い場所の近くに洗身シャワー、手洗い、洗眼設備を設けることが望ましい。

保護具

呼吸用保護具

換気の不十分な屋内で使用する場合は有機ガス用防毒マスク等を着用する。

手の保護具

耐溶剤性保護手袋。
接着剤の成分が浸透しにくいいため、かぶれを防止する。
但し、手袋によっては、合わせ目が破れ易いものがあるので、
事前に破れのないことを確認した上で使用する。

眼の保護具

側板付き普通眼鏡型又はゴーグル型保護眼鏡。

皮膚及び身体の保護具

長袖の作業衣。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 粘稠液体
色	: 白色
臭い	: わずかな特有の芳香
融点/凝固点	: データなし
沸点又は初留点	: データなし
沸点範囲	: データなし
可燃性(ガス、液体及び固体)	: 可燃性
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	: データなし
引火点	: 117°C
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
pH	: データなし
動粘性率	: データなし
溶解度	
水に対する溶解度	: 一部溶解
溶媒に対する溶解度	: データなし
n-オクタノール/水分配係数	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び/又は相対密度	: 1.4~1.6g/cm ³ (25°C)
相対ガス密度(空気=1)	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

高温、光の照射、混触危険物質との混合・接触により反応(重合反応、分解反応)する。

化学的安定性

第7項記載の適切な保管条件においては安定である。

危険有害反応可能性

高温、光の照射、混触危険物質との混合・接触により、発熱を伴う急激な化学反応(重合反応、分解反応)が起こり、有害性ガスの発生や火災発生の危険がある。

避けるべき条件

加熱、火気、直射日光、金属類・アミン類等の還元剤との混合・接触。

混触危険物質

金属類、アミン類等の還元剤、強酸、強アルカリ、強酸化剤。

危険有害な分解生成物

危険有害な分解生成物: データなし

11. 有害性情報

成分情報として、以下のような有害性情報(ECHA:CLP C&L Inventory)がある。

これらの成分の含有率を勘案してGHS分類は第2項の通りとした。

急性毒性

[成分データ]

(1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド)

上記物質は、ECHA(CLP C&L Inventory)より、急性毒性(経口)の有害性を有する。

(ポリ(オキシエチレン)=アルキルフェニルエーテル(アルキル基の炭素数が9のものに限る。))

上記物質は、ECHA(CLP C&L Inventory)より、急性毒性(経口)の有害性を有する。

[成分データ]

(1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド)

上記物質は、ECHA(CLP C&L Inventory)より、急性毒性(経皮)の有害性を有する。

[成分データ]

(1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド)

上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、急性毒性(吸入)の有害性を有する。

皮膚腐食性/刺激性

[成分データ]

(メタクリル酸2-ヒドロキシエチル)

上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、皮膚腐食性/刺激性の有害性を有する。

(1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド)

上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、皮膚腐食性/刺激性の有害性を有する。

(ポリ(オキシエチレン)=アルキルフェニルエーテル(アルキル基の炭素数が9のものに限る。))

上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、皮膚腐食性/刺激性の有害性を有する。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

[成分データ]

(メタクリル酸2-ヒドロキシエチル)

上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性の有害性を有する。

(1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド)

上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性の有害性を有する。

(ポリ(オキシエチレン)=アルキルフェニルエーテル(アルキル基の炭素数が9のものに限る。))

上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性の有害性を有する。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

感作性[厚労省局長通達]

メタクリル酸2-ヒドロキシエチル

皮膚感作性

[成分データ]

(メタクリル酸2-ヒドロキシエチル)

上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、皮膚感作性の有害性を有する。

生殖細胞変異原性: データなし

発がん性

[成分データ]

生殖毒性: データなし

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[成分データ]

(1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド)

気道刺激性(上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、特定標的臓器毒性(単回ばく露)の有害性を有する。)

特定標的臓器毒性(反復ばく露): データなし

誤えん有害性: データなし

12. 環境影響情報

成分情報として、以下のような有害性情報(ECHA: CLP C&L Inventory)がある。

これらの成分の含有率を勘案してGHS分類は第2項の通りとした。

生態毒性

水生環境有害性

漏洩すると環境に影響を与える恐れがある。水系、土壌など環境中に放出してはならない。

[成分データ]

水生環境有害性 長期(慢性)

(1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド)

上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、水生環境有害性の長期(慢性)の有害性を有する。

(ポリ(オキシエチレン)=アルキルフェニルエーテル(アルキル基の炭素数が9のものに限る。))

上記物質は、ECHA (CLP C&L Inventory) より、水生環境有害性の長期(慢性)の有害性を有する。

水溶解度

- (無機充填剤) : 非常に溶けにくい (14 mg/l, 25°C) (ICSC, 2012)
- (メタクリル酸2-ヒドロキシエチル) : 100 g/100 ml (PHYSROP_DB, 2008)
- (1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド) : 1.5 g/100 ml (ICSC, 2005)

残留性・分解性

[成分データ]

- (メタクリル酸2-ヒドロキシエチル) : 急速分解性あり
(BODによる分解度:95% (化審法DB, 1989))
- (1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド) : 急速分解性なし (BIOWIN)
- (ポリ(オキシエチレン)=アルキルフェニルエーテル : BODによる分解度:0% (既存点検, 1982)
(アルキル基の炭素数が9のものに限る。))

生物蓄積性

[成分データ]

- (メタクリル酸2-ヒドロキシエチル) : Log Kow=0.47 (SRC PHYSROP DB, 2017)
- (1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド) : log Pow=2.16 (ICSC, 2005)

土壌中の移動性

土壌中の移動性: データなし

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性: データなし

13. 廃棄上の注意

化学品(残余廃棄物)、当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄物の処理方法

- P501 - 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。
- 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。
- 廃棄する場合はA剤、B剤を少量ずつ混合させ、速やかに十分な水に浸漬させて廃プラスチック類として廃棄する。
- 単液で廃棄する場合は他の廃棄物と混ぜずに、廃油として廃棄する。
- 本製品の硬化物をディスクサンダー等で研磨した場合、研磨した粉末を集めたまま(掃除機のフィルター、ゴミ袋)放置すると自然発火する可能性がある。掃除機は使用せずにほうきで集めて十分な水に浸漬させて廃棄する。

汚染容器及び包装

- 内容物を完全に除去した後、上記産業廃棄物業者に委託し廃棄する。
- 下記に該当するものは残余廃棄物と同様に処理する。
- ①接着剤成分が付着した可燃物(ウェス、ダンボール、養生シート等)
- ②接着剤成分が付着した注入用器具、ローラー、刷毛

14. 輸送上の注意

国際規制

- 国連番号 : 該当しない
- 品名(国連輸送名) : 該当しない
- 国連分類(輸送における危険有害性クラス) : 該当しない
- 容器等級 : 該当しない

IMDG Code (国際海上危険物規程)

- 国連番号 : 該当しない
- 品名(国連輸送名) : 該当しない
- 国連分類(輸送における危険有害性クラス) : 該当しない
- 容器等級 : 該当しない

IATA (航空危険物規則書)

- 国連番号 : 該当しない

品名(国連輸送名) : 該当しない
 国連分類(輸送における危険有害性クラス) : 該当しない
 容器等級 : 該当しない
 環境有害性
 海洋汚染物質(該当/非該当) : 非該当
 特別の安全対策
 運搬に際しては容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み荷崩れの防止を確実に行う。
 MARPOL 73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質
 有害でない物質(OS類)
 無機充填剤
 国内規制がある場合の規制情報
 船舶安全法に該当しない。
 航空法に該当しない。

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報
 毒物及び劇物取締法
 毒物及び劇物取締法に該当しない
 労働安全衛生法
 特化則に該当しない
 有機溶剤等に該当しない
 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物
 名称表示危険/有害物
 メタクリル酸2-ヒドロキシエチル(安衛法別表2の1994 令和7年4月1日施行)(5.9%)
 名称通知危険/有害物
 メタクリル酸2-ヒドロキシエチル(安衛則別表2の1994 令和7年4月1日施行)(5.9%);
 ポリ(オキシエチレン)=アルキルフェニルエーテル(アルキル基の炭素数が9のものに限る。)
 (安衛則別表2の1956 令和8年4月1日施行)(0.5 - 0.6%)
 皮膚等障害化学物質(規則第594条の2)
 メタクリル酸2-ヒドロキシエチル
 化学物質管理促進(PRTR)法
 化学物質管理促進(PRTR)法に該当しない
 消防法
 危険物
 第4類 引火性液体第3石油類 危険等級 III(指定数量 2,000L)
 化審法
 優先評価化学物質
 ポリ(オキシエチレン)=アルキルフェニルエーテル(アルキル基の炭素数が9のものに限る。)
 (通し番号86 生態影響)

16. その他の情報

参照文献及び情報源
 Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN
 Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 22nd edit., 2021 UN
 IMDG Code, 2022 Edition (Incorporating Amendment 41-22)
 IATA 航空危険物規則書 第65版 (2024年)
 2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)
 2024 TLVs and BEIs. (ACGIH)
 JIS Z 7252 : 2019
 JIS Z 7253 : 2019
 2023 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)

Supplier's data/information

責任の限定について

1. 本情報は、作成者の知識の及ぶ限りにおいて正確ですが、その内容の絶対的な情報の正確性および情報収集の網羅性においては完全ではありません。またその内容は、代表的な実験値や調査に基づくものであり、いかなる保証をなすものではありません。
2. 本記載内容は、材料、製品に関するものであり、この材料が他の素材と組み合わせられた場合、処理された場合については想定しておりません。
3. 特に医薬用途、食品接触用途、化粧品、玩具、肥料または飼料には使用しないで下さい。
4. この材料を適切に使用する最終的決定の責任、およびこの情報をユーザー独自の取扱いに適合させ完全で満足できるものとする責任はユーザーにあります。
5. 全ての材料には未知の危険性があり、取扱いに十分に注意する必要があります。
このSDSには特定の危険性について記載してありますが、これ以外の危険性が存在しないとはいえません。
6. ご使用に際しては、必ず貴社にてリスクアセスメントと事前テストを行うなどして、使用目的への適合性や安全性等を確認の上、安全な使用条件を設定してください。
7. 本SDSの内容は新しい知見により断りなく変更する場合がありますので、ご了承ください。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点におけるEU公表データ (Consolidated version of the CLP Regulation published in 17/12/2022 and Commission delegated regulation (EU) 2022/692 (ATP18))です。